

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04543

研究課題名（和文）人の国際移動をめぐるリージョナルガバナンスの国際比較実証分析

研究課題名（英文）Regional Governance of International Migration: A Comparative Perspective

研究代表者

明石 純一（Akashi, Junichi）

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：30400617

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、人の国際移動をめぐるリージョナルガバナンスの実相を国際的な視点から究明するものである。国際的な人の労働移動は、受入国政府は当然として、国連機関、地域機構、送出国政府、国際労働派遣に関わるブローカー、市民社会組織等、様々なアクター間の相互作用と交渉のなかで、秩序付けられている。研究成果の一部は、『人の国際移動は管理されるのか：移民をめぐる秩序形成とガバナンス構築』ほか、多数の学術研究書、学術論文、国内外における学会報告において公表された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人の国際移動が活性化は、様々なグローバルな課題をもたらしている。一例をあげれば、移住労働者の脆弱性に起因する労働搾取である。既存の研究の多くは、受入国の法制度に焦点を当て、上記の問題構造を明らかにしよう試みるが、本研究では、送出国側の取組みにも着眼し、その現状と課題を明らかにしている。人の越境や移住労働者を取りまく環境に影響を及ぼす送出国政府や市民社会組織の役割・機能の重要性は、今後とも増していくであろう。本研究は、様々な事例分析を通じて、上記の背景、過程、帰結についての実証的知見を提供するものである。

研究成果の概要（英文）：The present study analyzed the governance structure of international relocation, specifically, labor migration in Asia. This four-year research project explored how the actions by the governments of sending countries of migrant workers, regional organizations, civil society organizations, and other actors, in addition to those by the governments of receiving countries, have affected labor migration governance. Some of the research outputs have been published in academic journals and books, including "Can International Movements of People Be Managed" and also reported at domestic and international scholarly conferences.

研究分野：国際政治 / 移民研究

キーワード：国際労働移動 移民 ガバナンス

1. 研究開始当初の背景

移民・難民の数は、21世紀に入り、史上最多を更新し続けている。この傾向は、国際的な人身取引、密入国、不法滞在・就労、単独児童移民、移住労働者の搾取、ホスト社会での外国人嫌悪や移民の市民的統合、帰還移民や難民の再統合といった諸課題の深刻化を伴っている。人の国際移動の活性化がもたらす上記諸問題へのアプローチに関して、既存の学術研究の営みは、専ら、欧米先進国を中心とする移民受入国において立案、実施される移民政策や入国管理規制を検討の対象としている。あるいは、受入国政府機関の間の連携・協力体制を取り上げている。

例えば、初版を1994年として、2014年で第三版を重ねる Hollifield ら編集の *Controlling Migration: A Global Perspective* (Stanford University Press) や、Koslowski 編の *Global Migration Regimes* (Palgrave Macmillan, 2011) には、こうした視座が典型的に現れている。一方で、受入国側の対応が望む結果を導いていない、という点も広く知られている。この分野では引用頻度が高い Ghosh 編集の *Managing Migration: Time for a New International Regime?* (Oxford University Press, 2000) や、Betts 編集の *Global Migration Governance* (Oxford University Press, 2011) には、人の国際移動の管理に関する単一国家主義の限界と、多国間主義への修正の必要性が述べられている。こうした多国間主義の主張は、そのひとつに、国連・国際組織の役割の増大を支持する。しかし、難民の保護を例外として、受入国の主権や裁量的判断に対する介入は困難であるというのが、根強い通説的解釈である。

こうした問題認識は、外国人労働者が近年急増する日本が含まれるアジアにおいて共有されている。とはいえ従来の研究は、アジアでも同様であり、受入国の政策や法制度に問題構造を読み解こうとするものが主である。そして、受入国政府が立案、実施する広義の「移民政策」は、移住労働を意図通りに実現させることは難しく、移住労働者の境遇を健全なものとするのも出来ていないという実態がある。本研究では、受入国における移住労働者をめぐる最新の政策動向を検討しつつも、一方で送出国政府の働きかけにも目を向け、アジアを中心に、越境労働が制御される背景、過程、帰結を究明することが目指された。

2. 研究の目的

受入国の政策展開とともに、国際機関、地域機構、送出国、市民社会組織等の存在や取り組みは、国境を越える人の移動、とりわけ労働移動・移住の実態に、どれほどの影響を与えているのか。そのうえで、どのような制度が組み立てられ、運用されているのか。アジアにおける国際労働移動の現実と制度的課題の俯瞰的検討のうえで、人の国際移動をめぐるガバナンスの実態を実証的に明らかにすることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は、第一に、網羅的な文献研究を基礎とする。文献の対象としては、20を超える移民研究に関する専門誌（例 *International Migration Review*, *Asian and Pacific Migration Journal*, *Ethnic and Migration Studies*）における各号における関連論文の内容の丹念な検討に加えて、国際移住機関などの国際機関、ASEAN などの地域機構、アジアにおける受入国・地域（日本、韓国、台湾、香港、シンガポールなど）及び送出国（フィリピン、インドネシア、ベトナムなど）の政府関係諸機関、また、移民支援団体を中心とする市民社会組織等が刊行する様々な類の書類（ポジションペーパー等）を集め、内容を精査した。一部、アジア以外の地域、すなわち中南米等を取り上げ、調査を実施した。第二に、現地調査を遂行し、政策立案者や市民社会組織のメンバーを中心に、インタビュー調査を行った。

4. 研究成果

本研究では、各研究メンバーの個別調査により得られた情報と知見を突き合わせ、アジアにおける人の国際移動の実態、関連国政府の政策動向、越境的なガバナンス構築の現状と課題を探索した。

(1) 移民政策・外国人（労働者）政策の立案と実施は、領域国家主権が色濃く表れながら、各国の事情が反映される政策分野である。例えば、日本、韓国、台湾を事例とすれば、同時期に、外国人労働者政策を導入した三事例であっても、外交や人権といった要素が外国人労働者の受入れに影響を与え、政策的対応の違いに現れる。

敷衍すると、従来の主流な説明のひとつであった、受入国における高齢化（人口構成の変化）、産業構造の変化、教育の高度化といった背景が労働力の海外からの導入の誘因であるという側面は確認され、その点では外国人労働者の受入れへの転換を説明する *Transitional Model* の有効性は確認されつつも、国境の外から労働力を受け入れるスキームには、各国・地域ごとの事情や制約に由来する特徴が現れる。

(2) 上に領域国家主権と述べたが、海外からの労働者の受入れ政策は受入国の専権事項でありつつも、その手段は、送出国との交渉・調整のなかで制度化されていく。自国の労働者の保護等に関する送出国の政策スタンスや法制度化の推進、また、受入国との外交関係により、受入れのパターンが変わりうる。

(3) さらに、前述の国際労働移動の制度化における国内政治力学の重要性も見落とせない。

例えば日本では 2018 年 12 月に「出入国管理及び難民認定法」が改正され（翌年 4 月施行）、外国人労働者の受入れが拡大された。海外からの非熟練労働者の受入れに消極的であった日本政府の近年の「政策転換」は、国内の政局や政策決定過程の変化についての理解を抜きにしては説明しにくい。

（４）アセアンに目を向ければ、地域主義が越境労働のあり方を規定するガバナンスに影響を与えていることが、本研究のなかで明らかにされている。例えば、フィリピンやインドネシアといった送出国のスタンスや、労働者の保護という観点から活発な活動を展開してきた市民社会組織の越境的な働きかけは、ASEAN における越境労働の枠組みに作用した。

なお、2019 年度末より、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け、2020 年 3 月以降に予定を組んでいた海外現地調査のすべてがキャンセルされた。これにより研究上の軌道修正が必要であったが、計画していた学術図書・論文は、ほぼ順調に公刊された。ただし、本研究の総まとめとして、2020 年度中を予定していた学術図書の刊行については、上述の調査の中止や、それに伴う編集方針と執筆者の変更により、2021 年度以降に延期することを余儀なくされた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 明石純一	4. 巻 78 (9)
2. 論文標題 日本の外国人労働者政策：その継続と変化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 20-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 明石純一	4. 巻 70 (1)
2. 論文標題 日本における外国人人口の動態と外国人政策の新展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 明石純一	4. 巻 10
2. 論文標題 日本における移民政策のグランドデザインの構築に向けて：入国管理体制の再検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 移民政策研究	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 明石純一	4. 巻 -
2. 論文標題 2018年入管法改正をめぐる一考察：文化的多様性を増す日本社会への含意	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化・民族・言語の多様性とその学際的研究論文集	6. 最初と最後の頁 108-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoko Shuto	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 Patterns and Views of China's Public Diplomacy in ASEAN Countries: Focusing on Confucius Institutes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 124-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/24761028.2018.1553227	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川玲子	4. 巻 3
2. 論文標題 東アジアにおける移住ケア労働者の構築	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 葉大学グローバル関係融合研究センターワーキングペーパー	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遅野井茂雄	4. 巻 54
2. 論文標題 「新冷戦」か ベネズエラ危機	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 74-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遅野井茂雄	4. 巻 34
2. 論文標題 モラレス大統領 4期目に向けたボリビアの政治経済情勢	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cantuta (日本 ボリビア協会会報誌)	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dadabaev Timur	4. 巻 186
2. 論文標題 Revisiting Japan 's Silk Road Master-narratives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asia Pacific Issues	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dadabaev Timur	4. 巻 59(1)
2. 論文標題 Afghanistan: Changes and Shifts in Domestic, Regional and Global Dynamics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Survey	6. 最初と最後の頁 114-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dadabaev Timur	4. 巻 -
2. 論文標題 Discourses of rivalry or rivalry of discourses: Discursive strategies of China and Japan in Central Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Pacific Review	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09512748.2018.1539026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dadabaev Timur	4. 巻 -
2. 論文標題 Japan Attempts to Crack the Central Asian Frontier	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asia Global Online	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dadabaev Timur	4. 巻 58(4)
2. 論文標題 Chinese Economic Pivot in Central Asia and Uzbekistan 's post-Karimov Re-emergence	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Survey	6. 最初と最後の頁 747-769
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1525/as.2018.58.4.747	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dadabaev Timur	4. 巻 19(3)
2. 論文標題 Japanese and Chinese Infrastructure Development Strategies in Central Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 542-561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109918000178	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dadabaev Timur	4. 巻 -
2. 論文標題 Uzbekistan as Central Asian Game Changer: Uzbekistan 's Foreign Policy Construction in the Post-Karimov era	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891118775289	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 首藤もと子	4. 巻 2
2. 論文標題 ASEANと国連 補完的関係の進展と地域ガバナンスの課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 グローバル・ガバナンス学	6. 最初と最後の頁 132-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa, R. and Wang, L.-R.,	4. 巻 27,3-4
2. 論文標題 Special Issue on Migration and Care Work: Policies and Practices in Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Social Work and Development	6. 最初と最後の頁 111-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02185385.2017.1408884	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Reiko Ogawa	4. 巻 27
2. 論文標題 Research Note: Intersectionality and Differentiated Citizenship: Migrant Care Workers in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Social Work and Development	6. 最初と最後の頁 187-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02185385.2017.1406821	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kurniati A., Chen C.-M., Efendi F., Ogawa R.	4. 巻 64
2. 論文標題 A deskilling and challenging journey: the lived experience of Indonesian nurse returnees	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Nursing Review	6. 最初と最後の頁 494-501
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/inr.12352	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川玲子	4. 巻 194
2. 論文標題 移住労働者と『ケアの正義』 台湾の移住ケア労働者支援団体の代表を迎えて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Migrants Network	6. 最初と最後の頁 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 DADABAEV Timur	4. 巻 9
2. 論文標題 Silk Road” as foreign policy discourse: The construction of Chinese, Japanese and Korean engagement strategies in Central Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.euras.2017.12.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 DADABAEV Timur	4. 巻 2
2. 論文標題 Engagement and contestation: The entangled imagery of the Silk Road	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cambridge Journal of Eurasian Studies,	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 明石純一	4. 巻 28
2. 論文標題 日本社会の『多文化』化と家庭教育：移民研究の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 家庭フォーラム	6. 最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 明石純一	4. 巻 569
2. 論文標題 現代日本の外国人労働者：昨今の政策動向とその含意	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 労働調査	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asato Wako	4. 巻 27
2. 論文標題 Welfare regime and labour migration policy for elderly care: new phase of social development in Taiwan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Social Work and Development	6. 最初と最後の頁 211-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02185385.2017.1408489	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安里和晃	4. 巻 -
2. 論文標題 第九章 台湾における外国人労働者政策と高齢者介護政策 国境を越えるケアの制度的整合性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 子どもを産む・家族をつくる人類学オルタナティブへの誘い	6. 最初と最後の頁 240-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安里和晃	4. 巻 -
2. 論文標題 介護に従事する多様な海外人材のチャンネルと人材育成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外国人看護・介護人材とサステナビリティ	6. 最初と最後の頁 234-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安里和晃	4. 巻 -
2. 論文標題 アジアの高齢化と人の移動の再編成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia Japan Journal	6. 最初と最後の頁 93-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 難民の保護とその実質化の過程：日本の第三国定住難民の受入れを事例として
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 2018年入管法改正をめぐる一考察：文化的多様性を増す日本社会への含意
3. 学会等名 タシケント国立東洋学大学・筑波大学協働会議『文化・民族・言語の多様性とその学際的研究』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 外国人労働者政策転換の意義と特定技能創設が及ぼす労働市場への影響：外国人労働者受け入れの成否に関する考え方と諸論点
3. 学会等名 HMS政策研究集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 急展開する日本の「外国人材」受入政策の動向と社会的対応の諸課題
3. 学会等名 立教大学社会福祉研究所主催 「第48回社会福祉のフロンティア」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 外国人が抱える課題
3. 学会等名 「日本の人間の安全保障」指標発表記念シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川玲子
2. 発表標題 東アジアの移住ケ労働者 移民レジームとケアレジームの観点から
3. 学会等名 社会学系コンソーシアム・日本学術会議第11回シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ogawa Reiko
2. 発表標題 Examining the Transnational Care Labor Market: National Care Systems, Transnational Imaginaries, and Neo-liberal Ambitions
3. 学会等名 4th Philippines Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ogawa Reiko
2. 発表標題 Migration and Care: Regional Care Chains in East Asia
3. 学会等名 International Political Science Association (IPSA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ogawa Reiko
2. 発表標題 Making of the Migrant Care Workers in East Asia
3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ogawa Reiko
2. 発表標題 New Approaches to Migration Governance: Care and Migration Regimes in East Asia, Immigration Policy and Border Security in Japan
3. 学会等名 the Jean Monnet Network, Hokkaido University & University of Victoria (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akashi Junichi
2. 発表標題 Immigration Policy in Postwar Japan: Historical Developments and Challenges Ahead
3. 学会等名 the Jean Monnet Network, Hokkaido University & University of Victoria (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akashi Junichi
2. 発表標題 Migration Politics and Discourse in Contemporary Japan
3. 学会等名 INTERNATIONAL SYMPOSIUM "TSUKUBA DAY IN PULA" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鹿毛理恵
2. 発表標題 近年の在日スリランカ人の動向と意識：留学生を中心にして
3. 学会等名 第41回スリランカ研究フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鹿毛理恵
2. 発表標題 国際労働移動の外部効果とリージョナル・ガバナンスの可能性：スリランカの女性家事労働者の実態調査から見たもの
3. 学会等名 第51回南アジア研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Ogawa
2. 発表標題 Migrant Care Workers in East Asia: Policies and Institutions
3. 学会等名 The 2017 Asian Conference on Social Work Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Reiko Ogawa
2. 発表標題 Transformation of Care in East Asia: Migration and Emerging Regional Care Chain
3. 学会等名 3rd Transforming Care Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小川玲子
2. 発表標題 東アジアにおける移住ケア労働者の構築
3. 学会等名 国際政治学会部会4「グローバル化する私的空間－国際政治学の挑戦」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 A. Sasaki and R. Ogawa
2. 発表標題 Migrant Care Workers and Students in Japan: Trained or Exploited?
3. 学会等名 Global Refugee Crisis (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Ogawa
2. 発表標題 Making of Filipino Care Workers and Transformation of Care in Japan,
3. 学会等名 Moving Care between Japan and the Philippines: Policy, Theory and Experience, Asia Center University of the Philippines Dilliman (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motoko Shuto
2. 発表標題 New Trends and Prospects of China's Public Diplomacy in Indonesia
3. 学会等名 Seminar at the Indonesian Institute of Sciences(LIPI) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Motoko Shuto
2. 発表標題 China and ASEAN in the context of Public diplomacy and the role of Indonesia for Regional Governance
3. 学会等名 One Asia Lecture Series ” Sate University of Malang (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akashi Junichi
2. 発表標題 Towards a more flexible model for inviting migrant workers
3. 学会等名 APEC Study Center Consortium Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 外国人高度人材の受入れについて～論点の紹介と整理
3. 学会等名 国連大学グローバルセミナー 第33回湘南セッション
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 入管政策の転換点～外国人材獲得のための諸政策評価～
3. 学会等名 イミグレーションロー実務研究会 第45回GVFセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akashi Junichi
2. 発表標題 Immigration policy and career development for immigrant youth in Japan
3. 学会等名 Decent Work, Equity and Inclusion: Passwords for the Present and the Future (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 マイグレーションスタディーズへの誘い～政策と実践への示唆～
3. 学会等名 横浜法学会平成29年度第5回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 外国人材の受け入れ：現状・課題・方策
3. 学会等名 神奈川県経済同友会環境福祉委員会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 日本の移民・難民政策と平和構築への示唆
3. 学会等名 国際基督教大学平和研究所特別シンポジウム「日本におけるマイノリティと平和の課題：学際的対話からのアプローチ」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 明石純一
2. 発表標題 多文化共生～輸入されなかった多文化主義と日本型『社会統合』
3. 学会等名 タシケント国立東洋学大学・筑波大学国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安里和晃
2. 発表標題 統合ケアと海外人材の位置づけ：アジア・欧州の事例から
3. 学会等名 ホームヘルパー中央研修会「海外における訪問介護の実情と日本の将来」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安里和晃
2. 発表標題 外国とかかわりのある家庭の抱える問題とその支援
3. 学会等名 JST RISTEXプロジェクト養育者支援によって児童虐待を低減するシステムの構築
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安里和晃
2. 発表標題 支援についての考え方 社会統合の視点から
3. 学会等名 新移民研究ワークショップ：外国にルーツを持つ子どもたちへの支援
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安里和晃
2. 発表標題 介護の担い手をめぐるグローバルな政策と実態
3. 学会等名 京大の知シリーズ26国際社会の中の日本 - 世界との関係・日本の現状 -
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安里和晃
2. 発表標題 超高齢社会とアジア諸国の介護
3. 学会等名 外国人と介護労働を考えるシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安里和晃
2. 発表標題 アジアにおける介護労働者
3. 学会等名 移住者と連帯する全国ネットワーク & 在日本韓国YMCA主催連続セミナー第8回（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ASATO, Wako
2. 発表標題 Who Cares? Challenges on Cross-Border Movement of Care Workers
3. 学会等名 Investing in Healthy and Active Aging for Sustainable Growth（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ASATO, Wako
2. 発表標題 Human Resource Development of Care Provider in Asia
3. 学会等名 11th Asian Society Against Dementia (ASAD) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ASATO, Wako
2. 発表標題 Framing Care: How Asian Elderly Care is Constructed
3. 学会等名 SASE Conference "Capitalism, Welfare Regime and Intimate Sphere: Theory of Human Reproduction in Mature Societies in Europe and East Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安里和晃
2. 発表標題 技能実習制度の介護職種への展開について：他国との比較も踏まえて
3. 学会等名 第18回日本認知症ケア学会沖縄大会「認知症と共に生きる」(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Akashi Junichiほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 222
3. 書名 EU-Japan Security Cooperation	

1. 著者名 Akashi Junichiほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 The De La Salle University Press/ Sussex University Press	5. 総ページ数 288
3. 書名 Thinking Beyond the State	

1. 著者名 Andrea Germer and Reiko Ogawa	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 -
3. 書名 Handbuch Interdisziplinäre Geschlechterforschung	

1. 著者名 小川玲子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 277
3. 書名 SDGsを学ぶ：国際開発・国際協力入門	

1. 著者名 渡邊啓貴・福田耕治・首藤もと子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 263
3. 書名 『グローバル・ガバナンス学』第2巻	

1. 著者名 DADABAEV Timur, ISMOILOV Murod, Yutaka Tsujinaka	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 188
3. 書名 Social Capital Construction and Governance in Central Asia: Communities and NGOs in post-Soviet Uzbekistan	

1. 著者名 Ogawa, R., Chan, R.K.H., Oishi, A.S., Wang, L.-R. (Eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 222
3. 書名 Gender, Care and Migration in East Asia, Series in Asian Labor and Welfare Policies	

1. 著者名 安里 和晃編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 312
3. 書名 国際移動と親密圏	

1. 著者名 渡戸一郎・塩原良和・長谷部美佳・明石純一・宣元錫編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ハーベスト社	5. 総ページ数 311
3. 書名 変容する国際移住のリアリティ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安里 和晃 (Asato Wako) (00465957)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	首藤 もと子 (Shuto Motoko) (10154337)	筑波大学・人文社会系(名誉教授)・名誉教授 (12102)	
研究分担者	ダダバエフ ティムール (Dadabaev Timur) (10376626)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	小川 玲子 (Ogawa Reiko) (30432884)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	鹿毛 理恵 (Kage Rie) (90638826)	沖縄国際大学・経済学部・准教授 (38001)	
研究分担者	遅野井 茂雄 (Osonoi Shigeo) (60257441)	筑波大学・人文社会系(名誉教授)・名誉教授 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
Labor migration in contemporary Asia: policy and regional governance perspectives	2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関